

## 「たまごニコニコ大作戦!!」でたまごの消費拡大を目指す

～北海道から沖縄まで自転車の旅でたまごの正しい知識を普及～

平成19年7月21日に北海道札幌市から「日本縦断チャリの旅」はスタートをした。

この旅は、岡山県倉敷市で鶏卵生産を行う「卵のだ初」の後継者である愛称「じょ兄(にい)」がたまごの消費拡大を目的に全国各地でイベントを開催し、たまごに関する正しい知識を普及し、1日2個のたまごを食べようという「たまご2個で、みんなニコニコ」を推進しながら4000kmのゴールである沖縄を目指すもの。

多くの食材を輸入に頼っている現在、米と並び高い自給率を誇る「たまご」。生食文化を持つ日本では、世界一高品質のたまごが生産されている。しかし、コレステロールに関する誤った情報から「卵は1日1個まで」と思っている消費者も多く、正しい知識を普及し、誤解を解き「1日2個」にすることで消費の拡大が見込まれる。

消費者にとっては「価格の優等生」であるが、生産者にとっては「低価値」のたまご。両者が幸せになるためには「消費拡大」が不可欠と考えるとともに、鶏卵関連業界全体の発展のため、企業や個人の枠を超え、業界全体が丸となり達成した際には、日本のたまご業界の更なる発展を願うこのプロジェクトは立ち上がった。

これまで北海道・秋田・宮城・福島・茨城・千葉・東京・神奈川・愛知・岐阜・京都を通して、各地でのイベント開催や養鶏生産者などを訪問した(9月20日現在)。

9月1日には、神奈川県養鶏協会や業界関係者の協力を得て、横浜市の上大岡駅前イベントを開催した。当日は、残暑も厳しい中1000人以上の消費者が訪れ、たまご検定やたまごごはん早食い競争に挑戦した。

たまごかけごはん早食い競争では、12時



一生懸命「たまごかけごはん」を食べる子どもたち



多くの来場者でにぎわう神奈川開催



自転車でも京都会場入りする「じょ兄。」



たまごの栄養について語る八田教授(右)と「じょ兄。」(左)

と14時の2回開催を予定していたが参加希望者が多く、子どもの部と大人の部でそれぞれ実施し、14時の開催では、大人の部を2班に分けて行うなど大盛況となった。

9月16日に開催した京都でのイベントでは、200人を超える来場者が、京都市上京区のKBSホールを訪れた。呼びかけ人委員になっている京都女子大学の八田一教授と研究室の学生が出題したたまご博士を認定する「たまご検定」やたまごを一早く立てる競争、あひるなどのたまごの重量を当てるクイズのほか、八田教授と「じょ兄。」によるたまごの栄養価について講演が行われた。



たまごの栄養しさを伝えるイエローバンド

今後は、地元の岡山で予定している4回のイベントを行い、鳥根・広島・山口・福岡・熊本・宮崎・鹿児島島の各地でイベント等を開催し、ゴールとなる沖縄を目指す。「北海道から沖縄まで多くの人たちに助けられると思う。だから私はたくさんの方々にたまごの素晴らしさ、日本の食文化の素晴らしさを伝える。また行動すれば変わるということも伝えられたらと考えている。しかし、これはきょうけにしか過ぎない。消費拡大を図るための行動を実現させるのは業界関係者である。(じょ兄。)

「日本縦断チャリの旅」と活動の状況については、ブログ(<http://tamaniko.cocolog-nifty.com/blog/>)で日々更新されている。また、活動資金に当てることを目的(一部旅の経費にも充当)にイエローバンドやたまごTシャツの販売も行っている(イベント会場でも販売)。

このプロジェクトが成功し、鶏卵養鶏業界だけでなく消費低迷する酪農乳業界へ波及することを期待する。